

舊錄云、以木梯從船頭投海中、人疾趨至梢、人梯同至、謂之合更、人行先於梯爲不及更、人行後於梯爲過更、今西洋船、用玻璃漏定更、簡而易曉、細口大腹玻璃瓶兩枚、一枚盛沙滿之、兩口上下對合、通一線、以過沙懸針盤上、沙過盡爲一漏、卽倒轉懸之、計一晝一夜、約二十四漏、每更船六十里、約二漏半有零、人行先木梯爲不及更者、風慢船行緩、雖及漏刻、尙無六十里、爲不及更也、人行後於梯爲過更者、風疾船行速、當及漏刻、已踰六十里、爲過更也、

〔梅園日記四〕焚香知時

今も常香を焚もの、時をはかる事あり、さてこれも、唐土の製にならへるなり、疑耀に、昔張忠定公、數領郡事、其寢室中、必張燈炷香、通夕宴座、郡樓更鼓、必令分明、倘一刻差誤、必詰之、また香乘に、熙寧癸丑歲、待次梅溪、始作百刻香印、以準昏曉、久增置五夜香刻とあり、

〔龍鳴抄〕香の火もみず、かいのこるもきかず、ほしのくらゐをもたづねず、月のだくるをもさたせず、人にたゞいまいくとさといふに、もしは子とも丑ともいふ、○下

〔新編鎌倉志三〕常樂寺○中

寺寶

定規 貳篇、共ニ板ニ刻シテアリ、○中 其文如左、

光陰有限、六七十歲、便在目前、苟若虛過一生、灼然難得復本、既挂佛衣之後、入此門來、莫分彼此之居、各當行斯道、儻以粟船上殿爲名、晝夜恣情於戲、非但與俗無殊、亦乃於汝何益、今後本寺主者、既爲衆僧之首、當依建長矩式而行、晝則誦經之外、可還僧房中、客前坐禪、初後夜之時、以香爲定式、領衆坐禪、二更三點、可擊鼓、房主歸、衆方休息、四更一點、仍復坐禪、至開靜時、方入寮、夜中不可高聲談論、粥飯二時、並須齊赴、不可先後、今立此爲定規、不可故犯、若有恣意不從之者、申其名來、可與重罰、住山道隆、